

要 望 書

「水族館」の建設について

松山市におかれましては、地方創生のための各種取り組みを進められているところでありますが、松山市の主要産業である観光産業に目を向ければ、地域間競争はますます激しさを増しているうえ、えひめ国体終了後には、道後温泉本館の改修が予定されており、「本館完全閉館の場合、約 594 億円の損失」との松山市道後温泉活性化計画審議会から答申がなされるなど、道後地区のみならず松山市、ひいては愛媛・四国全体の入込観光客の減少が危惧されております。

この本館改修も見据えて松山市におかれましては、温泉とアートを組み合わせた新たなイベントとして道後オンセナートや「椿の湯」新館建設に向けた取組みなど、様々な活性化策を講じられておりますが、予測される経済損失は莫大なものがあり、さらには雇用への甚大な影響も懸念されることから、地域の活性化や魅力向上につながる新たな、象徴的な施設が必要であります。

我々はその施設について、多くの世代から親しまれ、国内外からの誘客も大いに期待できる「水族館」が最も効果的であると考えております。仙台や上越など全国各地に新たな水族館が次々と建設されている中、現在四国には小規模な水族館ばかりで、本格的な施設がない状況であります。さらに、近年では技術革新により京都水族館やすみだ水族館のように完全人工海水利用の水族館もあり、建設場所についての自由度も高くなっております。

また、一昨年秋に我々は、道後地域の活性化のため、ビオトープを実現しホテルが生息できるようにとの提言を行いました。このホテルについて、東武動物公園（埼玉県）内に設置されているホテルを1年間通じて観賞できる劇場型施設「ほたりウム」を参考にし、他の水族館との差別化を図る面からも水族館内常設展示施設として検討すべきであるとも考えております。

道後地区の回遊性を高め、更なる観光交流拠点とするため、現在計画されている様々な取組みに加え、道後地区やその周辺部に新たに「水族館」を建設することについて、積極的にご検討いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年 1 月 28 日

松山市長
野志 克仁 様

愛媛経済同友会

代表幹事 薬師神 績
代表幹事 本田 元広